

公約実現について町長の所信を問う

実現に向け更に努力する



坂元 正春 議員

一期目の町長選において公約されたスーパースタジアム・武道城構想等実現できなかったものは、理由を説明し、理解を求め、理由が筋道ではないか。今後、実現に向け前向きに取り組む考えがあるか。

構想の実現は難しいが努力する

町長

一期目の公約として、5つの構想を掲げ、実現に向け一生懸命努めてきた。スーパースタジアム・武道城構想については、財源等の問題もあり実現に至っていない。今後は広域的な視点で更に努力していく。PFI構想や民間活力の定住化施策、その他の構想も用地や資金等の問題、市町村合併を想定し初期投資と

採算性の問題等考慮し具体化していない。

二期目には6つの公約を掲げているが、教育文化の充実、若者等の定住促進、その他近年進めているビーチスポーツを核としたスポーツと観光の振興をはかっていく。

どうなる合併問題

坂元議員

合併は、国・県の基本政策であり避けて通れないはずだった。町長は判断を二度も町民に丸投げして、大崎町の将来に多大な禍根を残す結果となった。町民が志布志市との合併を望む声が多かった事を受け、12月定例会で「合併を推進する」議決により合併に向かつて動き出したが、町長は大崎町民の今の幸せを守るため、どんな施策で望むのか。

執行部と議会の合意形成を進める

町長

合併はあくまでも住民の意思を尊重し、議会との合意形成を図りながら、対等合併で望む考えである。大崎町が単独と決定後、行財政改革を職員共々徹底して取り組んでいる。課題も多いが、十分理解が得られるよう努力する。

今の教育環境で学力向上が望めるか

坂元議員

児童・生徒の学力を伸ばすために、教員の専門的知識や技術及び学習指導力の不足が問われている。教員の学習指導力を高める為にどのような方策を取っているか。

考える授業を

重点に置く

教育長

学力向上については、各学校・町・県とも学力推進を第一に取り組み「汗をかく授業」すなわち考える授業を重点に置き、習熟度別や少人数に分け基礎基本学習の定着に努めている。子供の発達段階に応じ教育環境を整える事が重要である。

統合に向け検討する時期と考えるが

坂元議員

生徒数の減少は教育環境を大きく変え、統合の時期を感じる。学校の再編計画の中に仮称「中学校の教育を語る会」を立ち上げ、各学校の現状を語ることから始めたらどうか。

「あるべき姿検討委員会」を立ち上げる

教育長

学校統合は、生徒数の減少に伴い近年全国各地で行われている、本町も生徒の減少は避けられない状況にあり、平成25年度までの6年間で、130名の減少が予想される。今後「あるべき姿検討委員会」を設置し、検討していく考えである。

中学校生徒数の年度別の変化 (単位：人)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
大崎中	301	283	275	261	251	235	231
第一中	88	81	76	71	75	70	64
菱田中	98	97	98	92	77	71	62
計	487	461	449	424	403	376	357
前年比較	-	△26	△12	△25	△21	△27	△19

【その他の質問】

- ・校舎・体育館の耐震問題
- ・校内での体罰いじめ問題
- ・児童数の下げ止まり回復に向けた方策
- ・立小野小学校の特認校制度の存続について